

2024年（令和六年） 3月29日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階  
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

## ■ 概況

3/14~3/20のNYMEX・WTI先物市場は81.04~83.47ドルの範囲で推移した。

3月21日は、独・仏の3月の景況感が前月より悪化し、また、イスラエル・ハマスの停戦交渉が再開したとの報道もあり、続落した。ただ、前日の米国週間石油在庫が原油・ガソリンとも前週比減少したことが、下値を支えた。この日から取引の中心限月となった5月物終値は前日比0.20安の81.07ドル。

週末22日は、イスラエルとハマスの停戦交渉再開で、中東の緊張が和らいだことから、続落した。ただ、ロシアによるウクライナのエネルギー施設への攻撃激化で、底値は固かった。5月物終値は前日比0.44ドル安の80.63ドル。

週明け25日は、ウクライナによるロシア製油所への攻撃、ロシアのウクライナ・エネルギー施設への反撃に加え、22日のイスラム国(IS)によるロシアへのテロ攻撃の発生で、両国を巡る地政学リスクの高まりによって、4営業日ぶりに反落した。5月物終値は前日比1.32ドル高の81.95ドル。

26日は、ウクライナとロシアのエネルギー施設へのドローン・ミサイル攻撃の応酬で、ロシアでは精製能力不足、ウクライナでは発電設備不足が懸念される中、利益確定売りが優勢となり、反落した。ただ、ロシア政府が国営石油会社に25日、4~6月期の減産を指示したとの報道もあって、下値は限られた。5月物終値は前日比0.33ドル安の81.62ドル。

27日は、米国石油在庫週報で、原油・ガソリンとも予想外の前週比積み増しとなり、為替市場のドル高で原油先物の割高感がたかまったことで、小幅に続落した。なお、OPECプラスの次回会合(4月3日)では、現行減産合意を維持するとの

見通しが強い。5月物終値は、同0.27ドル値下がりの81.35ドル。

中東産バイ原油/東京市場(5月渡し)は、3月14日~20日の間、83.30~84.60ドルの範囲で推移。3月21日84.60ドル、22日83.60ドル、25日84.50ドル、26日84.30ドル、27日83.50ドル。

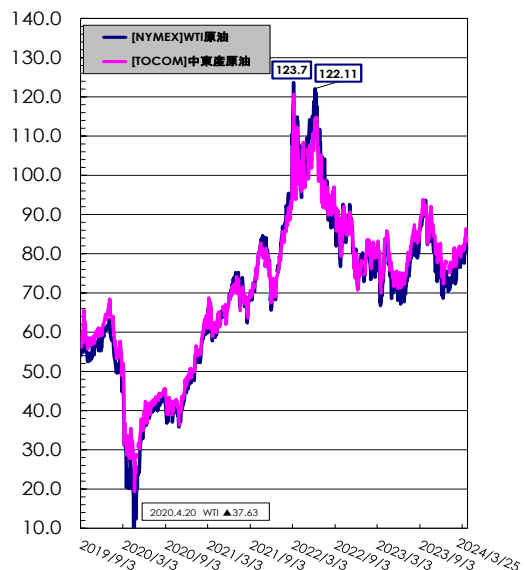
対ドル為替レート(TTM)は3月14日~20日の間、147.68~149.32円の範囲で推移。3月21日150.79円、22日151.59円、25日151.43円、26日151.33円、27日151.57円。

財務省が3月28日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、3月上旬の原油輸入平均CIF価格78,400円で前旬比386円高、ドル建て82.98ドルで前旬比0.04ドル安、為替レートは1ドル/150.20円。

そのような中で、3月25日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円高、軽油も同0.1円高、灯油は横ばい(18リットルベース)、ガソリンの全国平均価格は174.4円となった。3月28日~4月3日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は23.3円(補助金がない場合の次週予想価格198.1円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は13.1円)となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/17 ~ 3/23	2,815 ▼ -42	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	78.2 ▼ -1.3	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	3/23	10,549 ▲ 101	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	3/25	83.76 ▼ -0.95	▲ 10.3
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	3/25	81.95 ▼ -0.77	▲ 9.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月上旬	82.98 ▼ -0.04	▼ -2.45
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	78,400 ▲ 386	▲ 5,912
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	150.20 ▼ -0.79	▼ -15.30
	外国為替TTSLレート (¥/\$)	3/25	152.43 ▼ -2.11	▼ -20.78

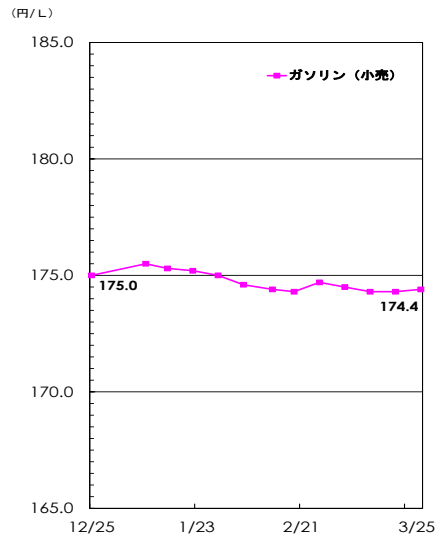
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	3/17 ~ 3/23	888 ▲ 112 ▲ -	
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	770 ➡ 0 ▼ -	
	輸出	"	139 ▲ 43 ▲ -	
	在庫	3/23	1,565 ▼ -21 ▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/19 ~ 3/25	80.4 ▲ 1.6 ▲ 4.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/19 ~ 3/25	81.0 ➡ 0.0 ▲ 8.0
		(TOCOM/中部)	3/25	81.0 ➡ 0.0 ▲ 7.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/25	174.4 ▲ 0.1 ▲ 6.4	

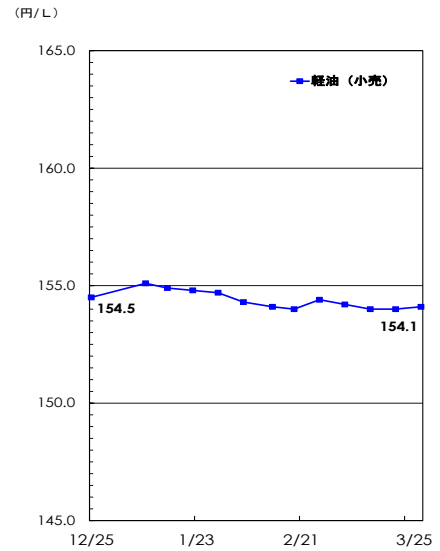
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

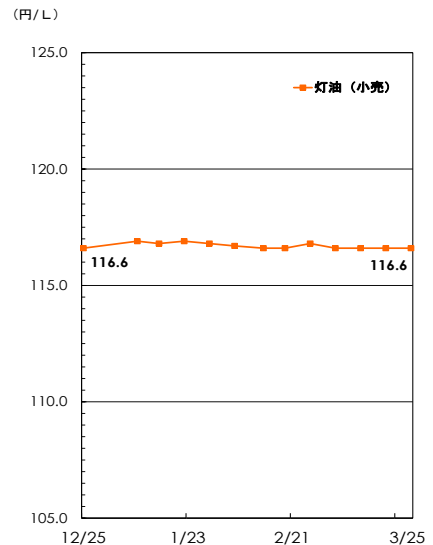
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	3/17 ~ 3/23	705 ▼ -34 ▼ -	
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	611 ▼ -25 ▲ -	
	輸出	"	139 ▲ 116 ▲ -	
	在庫	3/23	1,498 ▼ -45 ▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/19 ~ 3/25	80.4 ▲ 1.4 ▲ 3.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/19 ~ 3/25	82.3 ▲ 0.1 ▲ 4.3
		(TOCOM/中部)	3/25	- - -
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/25	154.1 ▲ 0.1 ▲ 6.0	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	3/17 ~ 3/23	252 ▼ -43 ▼ -	
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	345 ▼ -7 ▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0 ▼ -	
	在庫	3/23	1,162 ▼ -92 ▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/19 ~ 3/25	83.1 ▲ 2.4 ▲ 6.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/19 ~ 3/25	81.3 ▲ 0.3 ▲ 6.3
		(TOCOM/中部)	3/25	82.0 ▲ 1.5 ▲ 5.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/25	116.6 ➡ 0.0 ▲ 5.5	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(3月21日~27日)のWTI石油先物市場は、21日、続落の81.07ドルで始まり、週末22日も80.63ドルまで続落、週明け25日はウクライナのロシア製油所攻撃による供給懸念が高まり、イラクの4~6月の減産方針発表もあって、81.95ドルに反発したが、高値警戒感・利益確定売りで、26日・27日と続落、27日は81.35ドルで終わった。週を通じて、80ドル台初めの水準で推移した。

3月27日発表の22日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油が前週比320万バレル増と、市場予想(同130万バレル減)に反する3週ぶりの積み増し、ガソリンも同130万バレル増と、市場予想に反する積み増しで、需給の緩みを示した。

EIAによると3月25日時点で、ガソリンの小売価格は、前

週比7.0セント高の1ガロン3.523ドル(141.7円/ℓ)と4連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比0.6セント高の1ガロン4.034ドル(162.3円/ℓ)と2週連続の値上がり。

ペーカーヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、3月22日時点で、前週比1基減の509基と2週ぶりの減少であった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2024年3月17日~3月23日に休止したトッパー能力は35.3万バレル/日で、前週に対して横ばい(全処理能力は323.5万バレル/日)。

原油処理量は281.5万klと、前週に比べ4.2万kl減少。前年に対しては6.7万klの減少。トッパー稼働率は78.2%と前週に対して1.3ポイントの減少、前年に対しては0.5ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/14.4%増、ジェット/13.7%増、灯油/14.4%減、軽油/4.6%減、A重油/0.6%増、C重油/2.3%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl。軽油の輸出は13.9万kl(前週比11.6万kl増)。

出荷(輸入分を除く)はガソリン、ジェットで増加し、他の油種で減少した。前年比ではジェット、灯油、軽油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は77.0万kl(対前週0.1%増)と2週振りに増加した。ジェット10.8万kl(対前週12.5%増)、灯油34.5万kl(対前週2.0%減)、軽油61.1万kl(対

前週4.0%減)、A重油19.1万kl(対前週16.4%減)、C重油10.6万kl(対前週28.8%減)。

(単位:千kl)

	今週 (3/17 ~ 3/23)	前週 (3/10 ~ 3/16)	前週比	
ガソリン	770	770	0	(0%)
ジェット燃料	108	96	12	(13%)
灯油	345	352	-7	(-2%)
軽油	611	636	-25	(-4%)
A重油	191	228	-37	(-16%)
C重油	106	148	-42	(-28%)
合計	2,131	2,230	-99	(-4%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月23日時点の在庫はジェットが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェット、軽油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは156.5万kl、前週差2.1万kl減。前年に対しては1.3万kl少ない。

灯油は116.2万kl、前週差9.2万kl減。前年に対しては7.3万kl少ない。

軽油は149.8万kl、前週差4.5万kl減。前年に対しては32.8万kl多い。

A重油は65.5万kl、前週差0.2万kl減。前年に対しては3.1万kl少ない。

C重油は174.0万kl、前週差0.6万kl減。前年に対しては2.6万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (3/23)	前週 (3/16)	前週比	
ガソリン	1,565	1,586	-21	(-1%)
ジェット燃料	775	733	42	(6%)
灯油	1,162	1,254	-92	(-7%)
軽油	1,498	1,543	-45	(-3%)
A重油	655	657	-2	(-0%)
C重油	1,740	1,746	-6	(-0%)
合計	7,395	7,519	-124	(-1.6%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月19日～25日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートも円安の進行で、円建て輸入原油価格は値上がりし、元売会社の卸価格建値は値上げになったものと見られる。

上記コスト上げに、補助金増額分を考慮すると、3/28～4/3の実質卸価格は値上げとなった模様。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

3月19日～25日の製品スポット市況は、3月12日～18日平均と比べ、ガソリンの先物取引の横ばいを除いて、他の取引全てで値上がりした。

直近週(3/19～3/25)の陸上スポット価格平均値は、前週(3/12～3/18)比で、ガソリンは1.6円の値上がり、灯油も2.4円の値上がり、軽油も1.4円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(3/19～3/25)に、前週(3/12～3/18)比で、ガソリンは1.0円の値上がり、灯油も1.8円の値上がり、軽油も0.9円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油は0.3円の値上がり、軽油も0.1円の値上がりだった。

(お知らせ(6ページ)をご参照ください。)

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (3/19～3/25)	前週 (3/12～3/18)	前週比
スポット価格	レギュラー	80.4	78.8	▲ 1.6
	灯油	83.1	80.7	▲ 2.4
	軽油	80.4	79.0	▲ 1.4

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (3/19～3/25)	前週 (3/12～3/18)	前週比
先物価格	レギュラー	81.0	81.0	▶ 0.0
	灯油	81.3	81.0	▲ 0.3
	軽油	82.3	82.2	▲ 0.1

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/19～3/25実績値)				(単位: 円/%)
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 1.6	▶ 0.0	▲ 0.8	
灯油	▲ 2.4	▲ 0.3	▲ 1.3	
軽油	▲ 1.4	▲ 0.1	▲ 0.8	
A重油	▲ 1.6			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

3月25日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円高の174.4円、軽油も0.1円高の154.1円、灯油は18%ベースで横ばいの2,099円(1%ベースでも横ばいの116.6円)。ガソリンは4週ぶりの値上がり、軽油も4週ぶりの値上がり、灯油は2週連続の横ばいだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが26県、横ばいは香川等5県、値下がりが16都道府県だった。全国最安値は徳島県の167.0円、その次は青森県の168.7円であった。他方、最高値は長野県の184.4円。最も値上がりしたのは愛知県(同1.5円高)、最も値下がりは和歌山県(同1.4円安)だった。

次回調査時(4/1)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (3/25)	前週 (3/18)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	174.4	174.3	▲ 0.1	23/9/4 186.5
	灯油	116.6	116.6	▶ 0.0	08/8/11 132.1
	軽油	154.1	154.0	▲ 0.1	08/8/4 167.4

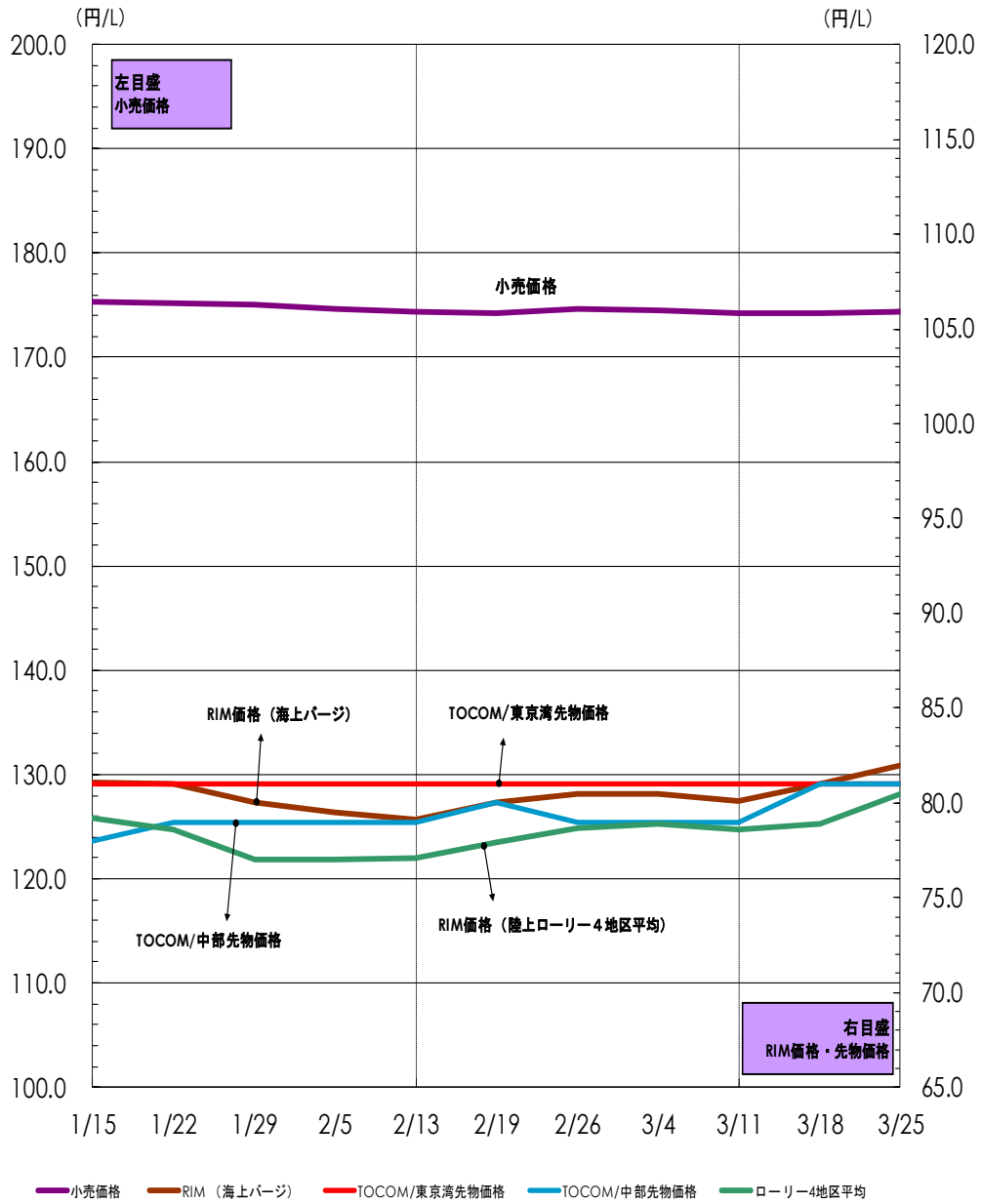
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2024/1/15 ~ 2024/3/25)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回 (2024第1号) の公表は、4/5 (金) 14:00 です。

### お知らせ

新年度、本レポート2024第1号 (4月5日) より、紙面の改訂を予定しています。近年の石油流通の構造、石油製品の価格形成等の状況変化を踏まえ、掲載情報の入れ替え、順序の整理などを行います。特に、4ページの3 (2) の「業転価格」については、表を含め、掲載を取りやめることとします。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層 (特に給油所経営に携わる方々) から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所 (The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限 (翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」 (旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社 (RIM) 「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用 (いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格 (平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格 (平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁-HPIに掲載)。